

第17回ペプチドフォーラム



「ケミカルバイオロジーを先導する 明日のペプチド化学：新しい接点と可能性を探る」

ケミカルバイオロジーは有機化学的概念や手法、有機化学によって得られた化合物を活用して生命現象を解明・制御する研究であり、生体機能分子の中でも重要なウェイトを占めるペプチド・タンパク質の科学と密接に関係している。今回、ペプチド科学を活用してケミカルバイオロジー研究を進めている国内外の先生方に話題を提供いただき、ペプチドを基盤とした生命志向型化学を先導する学術・方法論を考える契機となることを期待する。

日時：2013年 6月18日(火) 13:00 - 17:30

場所：東京医科歯科大学 生体材料工学研究所第二会議室 (1階)

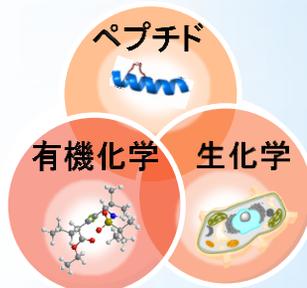
主催：日本ペプチド学会

共催：日本化学会、日本薬学会、学術振興会研究拠点形成事業「難治疾患
に対する分子標的薬創製のための国際共同研究拠点の構築」

後援：日本ケミカルバイオロジー学会

参加費無料
参加申込不要

- 13:00 挨拶：林良雄 (東薬大) * 英語での講演になります。
- 13:10 野村渉 (東京医歯大)
タゲープローブシステムによる細胞内タンパク質の動態観察法の研究
- 13:40 相馬洋平 (東大院薬/科学技術振興機構・ERATO)
アミロイドβペプチドを標的としたケミカルバイオロジー研究
- 14:10 小出隆規 (早稲田大先進理工)
三重らせんペプチドのエンジニアリング
- 14:40 休憩
- 15:00 E. James Petersson (University of Pennsylvania)
Expressed protein ligation without cysteine: N-terminal protein functionalization with aminoacyl transferases
- 15:50 Ines Neundorff (University of Cologne)
From small molecules to particles - intracellular cargo delivery using cell-penetrating peptides
- 16:40 林良雄 (東薬大)
ペプチド化学は筋肉関連疾患の治療に貢献できるのか？
- 17:10 玉村啓和 (東京医歯大)
ケミカルバイオロジーとペプチド科学(総括)



世話人：玉村啓和(東京医歯大)、林良雄(東薬大)

連絡先：〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-3-10

東京医科歯科大学生体材料工学研究所メディシナルケミストリー分野 玉村啓和

Tel: 03-5280-8036/Fax: 03-5280-8039 E-mail: tamamura.mr@tmd.ac.jp

